

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 2月 6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500131		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホーム ふれあい八本松		
所在地	東広島市八本松東5丁目8番34号 (電話) 082-427-3339		
自己評価作成日	平成29年1月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=34
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年2月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「その人らしい生活づくり」をモットーに、その人の生きざまを全てにわたって支援出来る介護を目指して取り組んでいます。一人ひとりの日常生活づくりを基本に、食事・入浴・排泄・遊びを丁寧にかかわれる援助を行っています。その上に、非日常の楽しみを、お一人ひとり実現できるように計画し、実行していく取り組みをしています。
また、当事業所は、医療（下山記念クリニック）と密に連携を取っていて、緊急時の対応も迅速に行える体制づくりを行っています。そういった体制だから出来る事ではありますが、看取りまでしっかり関わられるサービス提供を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

近隣の住宅から程よい位置にある、平屋建ての当事業所は、運営母体が医療法人である為、医療的バックアップはしっかり確保されている。前任管理者の思いを引き継ぎ、2年目にに入った現管理者は職員と共に、様々なアイデアを基に、日々スキルアップしながら支援に取り組んでいる。管理者は「孤立しないケア・家族と同じ気持ち」を大切に、熱心な家族や、理解ある地域住民に支えられ、家族や地域住民とのパイプ役として取り組んで行く姿勢が伺える。職員にとっても負担の少ないケアを目指ることが、利用者にとって心地よい支援に繋がるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「良質のサービス・幸福な人生・真心こめて・向上心」という法人の理念のもと、事業所理念・方針を立てて、具体的な想いのもと、スタッフが一致した行動がとれるようにしている。	事業所独自の理念「ここが我が家、1日1回以上の笑顔、繋がりを大切に」を心掛け、職員は同じ方向に向かって支援を行うよう取り組んでいる。研修に於いても、内容を理解し、新たな気持ちで実践に繋げる努力をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	引き続き関係を深い物にして行けるように、地域の保育所との交流行事、子供神輿（地域祭り）、子供会の参加行事（花火）を企画、実行している。その他、ボランティアの受け入れや、年2回の地域の清掃の参加により、地域住民との交流が深まりつつある。	地域の自治会に加入しており、子供会や消防団とも、積極的に連携する努力をしている。秋には祭りの神輿の休憩場に、玄関前空き地を提供し、おやつを利用者と職員が配り、更には、近隣の幼稚園より歌や手作りプレゼントを持参頂き、楽しく交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今のところ実現できていないが、運営推進会議時や、地域清掃の時に相談を受けたりすることがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、サービスの実際や、外部評価の報告を行い、その中で出たご意見をサービスの質の向上に役立てている。消防の参加を頂き、災害時の相談、助言を頂いている。	会議の出席者は、家族、管理者及び職員、地域包括支援センター代表、自治会長で、参加者が固定気味だったが、管理者の働きかけで、消防署等少しづつ参加メンバーが増えつつある。会議の内容は、報告に留まらず、その時々テーマに沿って質疑応答されており、アドバイスも貰いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の窓口への相談や電話での連絡相談を通して、協力体制の向上に努めている。障害福祉課などと連携を取るよう努めている。その結果、書類提出等の対応がよりスムーズに行えている。	市町へは、ケアプランや事務手続き等の相談で、日頃より連絡を取っている。又、運営推進会議に参加されている議員（自治会長）とも連携を取りながら、今後も協力関係を築くよう、取り組む努力がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関を開錠する工夫として、ドアにチャイムを付け、外へ出たい方にはスタッフが付き添い、外出したりしている。「身体拘束」をせずにケアを行うため、常に意識し、小さな拘束もなく努力をしている。</p>	<p>運営規定に拘束3要件「切迫性、非代替性、一時性」を示し、研修で正しく理解し、日々ケアに取り組んでいる。日常的にもヘイトスピーチ等行わないケアを心掛けている。夜間止むを得なく身体拘束する場合は、事前に家族に説明し、同意を得た上、センサーマット等を使用するが、出来る限り使用しないルールが、運営母体の方針である。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>ヒヤリハット報告書を通して、どんな小さなことでも見逃さない体制づくりをしている。「虐待」に当たる何気ない言葉使いや、行動を注意しあえる体制をとり、話しやすい職場づくりを心がけ、職員のストレスケアに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>日常生活自立支援・成年後見制度についての知識の追及が十分かと言えば、そうは言えない部分がある。ただ、個々のケースに応じて、その必要性の検討は、管理者を中心に行うようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居契約時には、しっかり説明の時間を設け、質問をお受けするようにし、同意をその都度得ている。その場で答えられない難しい質問は、出来るだけ迅速にお応えできるよう、他部署と連携を取り合って対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者が話しやすい環境づくりを第一とし、その傾聴に努めている。事業所として苦情処理担当も設け、電話や面会、書類などで伝えて頂くこと、あるいは他部署を通じてお伝え頂く体制を整え、年2回は家族会を開き、ご意見を頂く機会を設け、現場に反映させている。</p>	<p>面会は頻繁に来られる家族が多く、来所時に報告や要望を聴く機会が多い。遠方で来所が困難な家族には、手紙で報告を行う等している。要望が多いのは、同じ担当職員の固定化の希望や、重度化した場合の備え等であり、意見が反映されるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	主にミーティングや懇親会、又は、通常時でも、出来るだけ職員の考えを提案頂き、必要性の高さを見極めつつ、事業運営に反映させるようにしている。その結果、より行きやすい環境整備ができています。	管理者は会議の場は勿論の事、申し送り時でも、日々の支援の中での問題等を改善できるよう、その都度職員と話し合い、解決に導いている。又グッジョブ・コンテスト（頑張る職員を褒める）を事業所内で行い、運営母体が核となり、コンテストを行う等して、より良い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	チャレンジシートで一年ごとに、自ら目指す目標を立て、その達成度で評価できる仕組み、あるいは、能力・実行考課表を通して、その成果や実績を評価し、各個人の評価を決定することとしている。また、法人内でのマイスター試験の実施により、個人一人ひとりの評価実績が給与に直結できる仕組みも採用している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	マイスター試験の実績や、日ごろの業務遂行状況を、能力・実行評価表を通して、職員一人ひとりを評価し、足りない部分や伸ばしたい部分を見極め、法人内研修を中心に、各自研修に参加していく体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の他の事業所との連絡会議や、研修会などにおける情報交換、他法人の同業者との電話での空室状況の確認、パンフレットの配布などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時及び面会時には、ご家族より詳しい情報を頂き、各ご利用者ごとに担当を決め、ご本人とかかわりを深く持ち、食事・排泄・入浴を共にする事で、信頼関係を深めて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>管理者を中心として、又は担当者が窓口となって、少しの不安でもその解消に至れるように、ご利用者の家族の声を聴く姿勢を常にとっている。具体的には、明るい挨拶を第一とし、人間関係づくりを確たるものにしていくようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>契約前の事前訪問を含めて、ご家族の一番お困りなことからお話を伺い、今、必要とされていることを見極めるようにしている。また、従前のご利用サービスの介護事業者からも出来る範囲で情報収集し、信頼される事業所になれるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>アセスメントシートを中心として、情報収集し「ご本人がしたいこと」を実現させるように、その結果の実現によって、笑顔が増えるように支援している。また一緒に台所に立って、食器洗いや下ごしらえ、畑仕事を一緒に行っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>当事業所の行事には、出来るだけ参加して頂くようにし、ご本人、ご家族との関係がより深められる機会を、個別援助としても設けている。ご面会の際は、居室でご家族との時間を大切に、普段のご様子は写真とともに、毎月、お手紙でお知らせしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>開かれた住まいとして、友人の面会など自然な形でお受けし、住み慣れた以前の自宅への帰宅も支援している。また、馴染みの美容院やスーパーの買い物に、一緒に出かけたりしている。</p>	<p>玄関は常に未施錠で、面会時間も自由で、多くの利用者の家族が日々出入りしている様子が伺える。スーパーやコンビニエンスストアの従業員とも、買い物等を通して顔馴染みが出来たり、定期的に通う病院の看護師たちにも声を掛けてもらう等、途切れない関係づくりを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけご本人の良い場面を、他の利用者に見て頂けることに配慮し、支援している。隣り合って座る順番や、職員が間に入って馴染みの関係づくりへの支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了した方でも、面会に来ていただく機会を設けるため、行事の時は声をかけて、参加していただいている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の「幸せづくり計画」という考え方を第一に、ご本人の立場に立った“夢”の実現を支援している。	利用者一人ひとりの「その人の為に何が出来るか」を担当職員、管理者が日々の記録や生活歴から希望等を把握し、目標を立て、実現に近づける努力をしている。又、困難な場合は方法を変更したり、模索しながら、取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、ご家族からの情報をもとに、アセスメントを定期的に見直して、ご本人の小さな変化も見逃さないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送りや、毎月のモニタリングを通して、現状の把握に努めている。また、各担当者が中心となり、アセスメントの見直しを行い、適切なケアを提供できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のモニタリングにより、現状を把握し、状態の変化を見逃さず、担当者やスタッフが原案を考え、計画作成担当者が中心となり、計画作成をおこなっている。</p>	<p>利用者や家族の意見、要望を聴き、管理者、担当職員、ケアマネージャー等、必要な関係者は、モニタリングを行い、医療は勿論の事、生活面もより重視しながら計画を作成している。計画の実現が難しい場合は、短期目標を見直すことで、より現状に即した計画に修正している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活状況記録の裏面に、個別記録を出来るだけ詳しく記録し、モニタリングやケアプランの作成に反映できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>日々の業務に追われすぎないように、柔軟な発想を大事にしている。ご本人のニーズが実現可能なら、出来るだけ早期に対応するようにしている。外出支援などの時は、入浴時間を入れ替える等、柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>個別の地域資源も出来るだけ活用させていただくようにしている。地域の祭りの参加や、保育所との交流、ボランティアの受け入れも行っている。また、ご自宅への一時帰宅や、外泊も積極的に行えるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>母体の医療法人クリニックと24時間連携を取っている。定期的な往診を中心に医師からの説明も本人、ご家族に聞いて頂くようにしている。必要があれば、クリニックで受診させていただいている。</p>	<p>運営母体の院長は認知症の専門医で、心療内科もある。利用者は週1回の訪問診療を受けている。訪問看護も週1回受けており、他の病院への受診希望があれば、支援も行っている。又、予防にも気を配り、その結果、1年以上インフルエンザやノロウイルスに感染せず、医師と連携を取りながら支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>医療連携加算を計上させていただいており、往診表、メールによる連絡、又は、月に1回行われる医療連携会議などを通して、出来るだけきめ細やかな連携が取れるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は介護職員が付き添い、きめ細かい情報提供を行っている。入院中の面会や、医療連携室のソーシャルワーカーを通して、現状の把握や、退院後のケアについて、病院関係者やご家族と連絡を取るようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>医師・看護師・ご家族・職員で、ケアカンファレンスを開き、説明・情報の共有、今後の方針などを話し合い、苦痛の少ない、本人らしい生活作りを支援できるようにしている。その時々において、柔軟な対応が出来るよう心がけている。</p>	<p>利用時に家族に説明を行い、平素から連携を取りながら、重度化した場合は家族の意向を聴き、方針を共有しながら支援に努めている。夜間での対応は、母体医療機関の医師や看護師が対応出来るような体制がある。又、家族の希望があれば宿泊も可能である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時の対応について、具体的な対応研修を定期的に行っている。また、急変や事故が夜間の場合も、待機ナースに連絡が取れるシステムを導入している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防訓練などを通して、非常時の対応を定期的に学ぶようにしている。地域の代表者や近隣住民に、いざという時に協力をお願いできる体制をとっている。</p>	<p>消防訓練は、八本松支所消防署員の指導の下、初期消火、避難の方法等を行っている。事業所は危険地域外では有るが、自治会長が消防団長でも有り、地域住民も含め、協力体制は整っている。更に、水や非常食も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の尊厳を第一とし、信頼関係の構築に努めている。必ず苗字でお呼びし、各居室内はプライバシー空間と意識し、ノックや声掛けをしてからの入室を心がけている。	日常的な支援の中で、利用者に対しての言葉遣いも「親しみと慣れ合い」の違いを意識しながら、ケアに取り組んでいる。又、利用者の生活歴を知ること、誇りを大切にした対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	各入居者に担当を決め、深い馴染みの関係づくりを心がけている。上手く意思表示ができない方には、担当が一番に気づき、思いやり、意思をくみ取れる環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝が苦手な利用者には、無理じいせず、その方のペースで起き、食事をしていただいたり、体調に応じて食事の時間をずらすことはあるが、入居者同士の関係づくりもあり、可能な限り、一緒に食事をしていただける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家庭から持って来られた衣類の中から、ご本人の希望に沿った衣類の選択をしていただくようにしている。また、2か月に1回は、訪問美容を依頼し、来ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が思うように取れない方が多い中、お好みの食事を見つけながら、少しでも食べて頂ける様、食事形態や環境づくりを心がけている。	朝、昼は病院からの配食を中心に、1品手作りを添えている。夕食は利用者の好みに配慮し、その日にメニューを決めて調理し、下膳等は共に行っている。食材は週2回位スーパー等に利用者とお掛け、買い物を楽しんでいる。食事を楽しむ為に、テーブルやイスの座位を確認しながら、食べやすい工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>管理栄養士の指導も受けながら、行っている。一目で一日の水分摂取量が分かる記録をしていくことで、今の状況確認がしやすいようにしている。また、その方の嗜好にあった飲み物を提供するようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、洗面所へ声掛けや誘導を行い、口腔衛生を行っている。ご自分で出来ないところや、仕上げは職員がお手伝いしている。また、かかりつけの歯科医と連携を取り、口腔内がより健康的になるよう援助している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>いつまでも、トイレで気持ち良く排泄していただけるように、その方の排泄パターンを把握し、その方にあった介助方法で、自立支援につながる援助をしている。</p>	<p>全てのトイレに、ファンレステーブルを設置し、出来るだけ自立に向け見守りながら、待つ介護に取り組んでいる。夜間のトイレ誘導は一人ひとりのタイミングで支援しているが、失敗した時は、夜中でも速やかにシャワー浴を行い、心地よい眠りに繋げている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>出来るだけ薬に頼らない排泄を援助している。飲食物の工夫、前かがみやねじり等腹圧のかかる運動を日々取り入れ、良質な睡眠など、一日の生活リズムを大切にしている。医師、看護師、管理栄養士などとも相談しながら、食物繊維の多い献立や、水分摂取のできやすい環境づくりなどを配慮している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>標準の時間としては、午後2時頃から4時頃となっているが、ご本人の希望などによって、時間帯の変更にも応じている。原則三日に1回の入浴であるが、希望に応じて、毎日でも対応させて頂く事もある。</p>	<p>入浴を楽しんで貰うために、職員は一人ひとりの希望等を把握し、楽しく入浴出来る様取り組んでいる。入浴が嫌いな人には、誘導等を工夫しながら対応している。又、眠れない利用者には夜間でも、足浴等を行い、個々に応じた支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人が安心して眠れる環境作りとして、静かな個室環境作りに配慮している。また、場合によっては、リビングのソファでも、希望に合致すれば寝て頂く場合もある。ご本人が安心して眠れる環境を個々に考え、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師からの説明や、処方箋を通じて、情報を収集し、服薬によると思われる変化、異変は早急に看護師などと情報交換をし、適正な支援につながるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を中心に、ご本人の状態にあった役割や楽しみ事を実践できるように、家族などの情報を活かして判断している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に買い物や散歩、ドライブに出かけている。また家族と協力しながら、普段いけないような場所にも外出が実現できるようにしている。外部の環境を出来るだけ取り込んで、日常生活の充実に役立てている。	天気の良い日は、利用者の希望で近くの公園に車で出掛け、困難な利用者は庭に出て、美味しい空気を満喫している。年に1～2度、家族の協力の下、自宅に1泊したり、一時帰宅してお茶を飲む機会を設ける等支援している。又、退去した利用者の入院先に、職員とお見舞いに行く等して、外出する機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に、ご本人もちの金銭の管理は行っていないが、立替で、ご本人の希望の買い物の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>主に、外の家族から連絡いただいた電話をお繋ぎすることで、関係の充実を図る形が多いが、ご本人の希望に沿って、電話を掛けたり、手紙を書く支援も行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビングには、背丈より大きい掃出しの大きな窓が並んでおり、いつも明るい日差しを取り入れられる環境にある。自然に囲まれた環境で騒音の心配もなく、外で畑を作っており、自らが植えた野菜が育つ喜びを感じてもらっている。</p>	<p>建物は周りを遮断するものは無く、リビングはいつも日差しが感じられる。程よい広さは、利用者全員が居心地よく、職員もその場に溶け込んでいる。畑の草取りをしたり、廊下の手すりの消毒を手伝ったりしながら、自宅で過ごしている様に暮らしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>お一人おひとりが過ごしやすい場所になるように、ソファの位置やテーブル、椅子の配置などを考えている。また、その場面に応じて、形を変える援助も行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>長年使い慣れたダンスやソファなど、馴染みの深い物を持ってきていただき、少しでも家での暮らしに近づける様に、家族とともに行っている。</p>	<p>部屋は広くゆったりしており、自分の部屋の匂いは安心感に繋がっている。居室の入り口には、個性的な名札が掛けてあるが、間違う人には大きな字で書く等の工夫がしてある。個々の部屋には、敬老の日に授与して頂いた「今後も元気に過ごしてください」と書かれた賞状が、額に入った状態で飾られている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>出来る移動能力を最大限に活かし、それぞれに合った介助方法が統一して行えるよう、ご本人の状態のアセスメントをし、それに合った介助方法を段階別に提供できる援助方法を、移乗、排泄、入浴とそれぞれの場面に応じて確立している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい八本松

作成日 平成29年3月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域住民として町内のサロンなどの参加が実現できていない。	認知症の理解を深めて町内のサロンや、催しにも参加できるようになる。	事業所の催しや、運営推進会議の参加を広く勧める。	H30年3月
2	35	夜間における非常災害時の体制が不十分である。	非常災害時に慌てず、適切に対応できるようにする	非常災害対策計画の作成及び消防設備点検委託会社（セコム）と協力し訓練の実施	H29年9月及びH30年3月実施予定
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。